

令和2年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人鹿児島大学

1 全体評価

鹿児島大学は、地域とともに社会の発展に貢献する知の拠点として、「進取の気風にあふれる総合大学」を目指している。第3期中期目標期間においては、南九州及び南西諸島の「地域活性化の中核的拠点」としての機能を強化し、自ら困難な課題に果敢に挑戦する「進取の精神」を有する人材を育成するとともに、18歳人口減少問題やグローバル化を視野に入れ、「進取の気風にあふれる総合大学」に相応しい大学改革を実施するため、グローバルな視点を有する地域人材育成の強化等を基本目標に掲げている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、附属学校において、新たな校務支援システムを導入し、ICTを活用した業務の効率化を図るとともに、「先進的感染制御（難治性ウイルス疾患）」において、国際水準の卓越した研究を推進するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和2年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 令和2年4月にキャリア形成支援センターを設置し、専任教員やインターンシップ専門職員が配置されるなど、全学的なキャリア・就職支援体制を強化した結果、共通教育のキャリア関係科目や正課外のキャリア・就職支援の内容の充実及び受講（参加）学生の増加につながっている。地域のパイロット人材育成を目指す新たなインターンシップ「操縦飛行体験SKYCAMPプログラム」も、航空会社との連携協定に基づき実施し、令和3年度への道筋をつけることができている。また、令和3年5月、同センターが年間を通して実施する、全学年の学生を対象とした「課題解決型インターンシップ」が、「第4回学生が選ぶインターンシップアワード（同実行委員会主催、経済産業省・文部科学省・マイナビ等後援）」において文部科学大臣賞を受賞している。（ユニット「地域人材育成及び地域連携の推進」に関する取組）
- 地震火山地域防災センターにおいては、桜島噴火による降灰予測結果と社会基盤及び要支援者情報をGIS（地理情報システム）で表現した結果を融合して災害リスクを可視化し、降灰ハザードマップとして表示・作成する手法を開発し、その成果を防災・日本再生シンポジウム「大規模火山噴火時の災害医療に挑むー新たな取り組みと研究ー」で発表して、地域の防災意識向上に貢献している。また、「2010年奄美豪雨災害から10年」の事業において、防災啓発に関する講演動画と防災パネルを提供し、奄美市ウェブサイト、あまみTV、小中学校（28校）で活用されている。（ユニット「大学の強み・特色を活かした学術研究の推進」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載16事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、令和元年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が実施されていること等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載11事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載2事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載9事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

令和2年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 附属学校における教育課題への対応

附属小学校では、ICT活用による業務の効率化を図る中で、名簿、出欠席、成績等の情報を管理し、通知表、指導要録、出席簿等の作成を一元的に行える新たな校務支援システムを導入し、年度末における資料作成に要する時間を令和元年度の40%程度に短縮することができている。また、附属中学校では、美術科の授業において、オンラインにより奄美大島在住の製作者から伝統工芸品の大島紬についての説明を受けるなど、遠隔教育と外部人材活用の機会を設け、新たな学びに関する研究実践を深めている。

○ 国際水準の卓越した研究の推進

「先進的感染制御（難治性ウイルス疾患）」では、新型コロナウイルス感染症に対する新規治療法の開発に取り組んだ結果、3種類の化合物の抗ウイルス効果を同定することに成功し、3件の特許申請を行うとともに、その中の1化合物については製薬企業と共同研究を開始、また別の1化合物については国際誌に論文として発表することに加え、BSL2レベルで新型コロナウイルス感染症の研究が実施できるSARS-CoV-2レプリコンを開発するなど、卓越した研究を推進している。

附属病院関係

（診療面）

○ 地域医療機関と連携した新型コロナウイルス感染症対策への地域貢献

新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、患者受入体制整備、院内感染対策に加え、厚生労働省ECMOチーム等養成研修事業「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策人工呼吸・ECMO講習会」を開催し多職種連携強化を図るなど地域医療機関と連携した新型コロナウイルス感染症対策に取り組んでいる。

（運営面）

○ 地域医療機関と連携した新型コロナウイルス感染症対策への地域貢献

新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、クラスター発生時の医療機関・介護施設・行政機関支援や医療機関・介護施設クラスター発生予防に関する支援等、行政・各種団体と協力したクラスター発生時対応・予防活動の推進を図っている。